



正暦寺通信 瑠璃光

発行
菩提山 正暦寺
〒六三〇一八四一三
奈良市菩提山町157番地
TEL 〇七四二(六二)九五六九
HP <http://shoryakujij.jp/>
第一号

お知らせ

《正暦寺 のびのび写経の会 作品展》
般若心経や観音経、梵字や近代詩文、經典
を読み進む中で出会った美しい言葉や教え
などを作品にしてみました。正暦寺の宗教
空間に惹かれて集まった仲間たちの心あた
たまる作品展です。

会期 平成二十五年八月十六日(金)
〜十八日(日)

時間 十六日(金) 十二時〜十八時
十七日(土) 九時〜十八時
十八日(日) 九時〜十六時

会場 奈良県文化会館 B展示室

《大峰修行》

八月十一日(日)、毎年恒例の大峰山山上ヶ
岳を登る大峰修行を行います。大峰山に登
りきると山頂にある大峰山寺にて祈願護摩
を焚いていただきます。参加ご希望の方は
お寺へお問い合わせください。



《寄付金袋の作成》

正暦寺に心を寄せる有志の方々により、大
切な帯地を使って寄付金袋を作成していた
できました。平成二十八年度を目前に薬師
如来様の造立、日光・月光菩薩立像という
正暦寺興隆計画に向けて、毎日少しずつ積
み立てていただけるような袋の構造になっ
ています。



各種供養・ご祈願は年中受け付けています

供養

人形供養、遺品供養、結納品供養、先祖供養、
その他心に引っ掛かる物・事は供養致します。

祈願

交通安全自動車祈願、護摩祈願、厄除祈願、
安産祈願等ご相談に応じて祈願致します。

受付時間

午前九時〜午後四時(三月〜十一月迄)
午前九時〜午後三時(十二月〜二月迄)

受付場所は正暦寺 福寿院にて

正暦寺行事予定

年間行事

修正会 一月三日〜五日
菩提もと清酒祭 一月上旬予定
星供養 二月三日
人形供養法要 三月九日
薬師会式 四月十八日
冬至祭 十二月二十二日
除夜の鐘 十二月三十一日

月例行事

めいそうの会 毎月第一日曜日
お経を読む会 毎月八日
お写経の会 毎月八日
仏像彫刻の会 毎月第二・第四日曜日
お護摩の会 毎月二十八日

秘仏特別公開

春季特別公開 四月十八日〜五月八日
(秘仏薬師如来倚像と瑠璃殿の寺宝公開)

秋季特別公開 十一月二日〜十二月一日
(本堂にて秘仏薬師如来倚像と仏画公開)

※詳しくは正暦寺までお問い合わせください。

〒六三〇一八四一三
奈良市菩提山町157番地
TEL 〇七四二(六二)九五六九
HP <http://shoryakujij.jp/>
菩提山 正暦寺

【ささやかなよろこびを生きる力に】

庭園研究の第一人者でございました森蘊(もりおくむ)先生は、世界に
誇る日本的庭園は「自然風景式庭園(自然借景式庭園)」で、その最た
るものは若手県平泉の毛越寺であると断言されてきました。この毛越寺
のすぐ近くに親自在王院跡があります。この寺跡はそのまま整備され草
地として地元自治体によって管理されていますが、平安時代の伽藍配置
が理解しやすいように配慮されています。この寺跡の中心地に腰を下ろ
し読経してみると、多くの人々が生きた宗教空間の諸相を私なりに感じ
取ることができました。

平成八年に親自在王院跡を訪れた時に、正暦寺の境内地整備にあたり
模範とすべきはこのようなものではないか、とふと思いました。寺跡の
石垣はそこに寺があったことがわかるように掃除をし、寺跡の草地は芝
生ではなく昔からこの地に生えてきた山野草で埋め尽くす。山の植生を
乱さず、しかもお山全体が伸びやかで爽やかな景色に包まれるためには、
境内地を飾る四季の花は、菩提山で生息してきた木々や山野草とするこ
とだと思いました。春ともなればタンポポやスミレやキンポウゲが咲き
メルヘンの世界を創出してくれます。本堂の外陣に坐って東方や南方を
仰ぎ見れば、額縁の絵を見るように山野草の近景と菩提山の山々との織
りなす軽やかですがすがしい光に包まれます。

広大な境内地を護りながら日々思いますことは、伽藍の再建などとい
う大それたことよりも、また、むつかしい宗教論議よりも、今日この地
に足を踏み入れてくださる方のために、参道を掃き清め客殿や本堂の縁
を拭き、この地を訪れて下さるがすがしく帰っていただくことに心を尽くす
ことが一番大切だということです。そのために、今掃く竹箒の一掃き、
石段の草を抜く一手が私に生きていく喜びと力を与え続けて下さってい
ます。

ところが、平成十九年五月六日に動脈瘤が発見され、頭の切開手術を
受けました。それからの約五年間は、この「拭く」ということが全くと
いってよいほどできなくなっていました。心臓よりも頭を低くして
左右に振りますと、めまいと頭痛に襲われ半日ほど寝込んでしまうので
す。ようやく昨年あたりから、少くくらの縁拭きならば苦にならない
ようになってきました。床や縁を拭くことは、心を拭くことにも通じま
す。あちらこちらを拭き上げたあとの爽快感「心を拭き続ける」とい
う謙虚な姿勢を培ってくれます。今、そのことができる身体にもどして
いただいたことに深く感謝しております。

正暦寺住職 大原弘信